
緑の人の憂鬱

Sign

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

緑の人の憂鬱

【Nコード】

N7060T

【作者名】

Sign

【あらすじ】

風呂場で意識を失って、目覚めたらU・C。（機動戦士ガンダム）の世界でした！。

ここはイギリス。

流れる金髪。

そんな俺は・・・え、グリーン・ワイアット？

紅茶かよ。

無能将官三羽鳥かよ。

核の炎で焼かれるのかよお!!

決めた。史実なんて関係ねー。
ぜってー生き延びてやる。

序（前書き）

ノリと勢いで書いてますので遅筆です。

作者は連邦派なのでジオンの扱いはひどいです（多分）。

ジオン原理主義の方はもどれを押してください。

笑って済ませられる方は、稚拙な文ですがお楽しみいただけると幸いです。

序

「デースマアチィ デスマーチ ズーっと、続くデスマーチ♪」
と、某ロイヤルスペースフォースのはりぼての歌（俺命名）の節
回して現状を嘆きつつ、アパートに帰宅。途中のコンビニで買った
オニギリと缶ビールをかつくらって、ようやく一息つけた。さあ、
風呂だ風呂。

あ、俺の名前は鈴木一郎。^{スズキイチロウ}

^{ヒノモト}この日ノ本で一番ありきたりっぽい名前。でも同じ名前はほとん
ど見たこと無い。他に知ってるのはメジャーリーガーな人くらいだ。
なぜだろう？

まあ、どうでもいいや。28歳の♂のガノタで、彼女は無し。働
いてはいる：ものの、勤め先は真っ黒っぽい会社だぜ！！ 今日で
30連勤30残業、明日も明後日も多分同じ。え？労基法？何それ、
美味しいの？

ま、このご時世働けるだけマシだと思ってますよ。給料も今のと
ころちゃんと出てるし。

というわけで、冒頭の歌に繋がるわけだけでも。

風呂場で浴槽に座り込みながらあつついシャワーかぶっていると、
…あれ？ なんか、意識が…。

そーいや、ビール飲んですぐ風呂は体に負担かかるんだっけか。
（体調崩したらまた上司にどやされるなあ…）

とか考えつつ、俺は意識を手放した。

∴彼は、生き延びることが出来るか？

第1話 僕の名前はグリーン・ワイアット（修正）

目が覚めると、白い天井に蛍光灯。目だけを動かしまわりを見ると、清潔な白系統でまとめられた室内。どうやら俺の手に刺さってるっぽい点滴。

どう考えても病院ですね、わかります。

はあ、外の具合からするにもう昼間っぽいし、無断で欠勤かー。デスマーチ中なのになあ。ってか、誰が俺助けてくれたんだろ？俺、一人身なのに。

取り留めない事が頭の中で渦巻いては消えていく。

と、その時にドアが開く音した。そして人の声。

「そろそろ、検温の時間ですよー。って、目が覚めてないからわからないかな」

どうやら看護師さんのようだ。

まだ視界には入ってこないけど、声を出してみる。

『こ……コは……ど……こ？』

やけにしゃべりにくい。何だろ、何かおかしい。

まあいい。どうやら、看護師さんには声が聞こえたみたいで。

銀髪の綺麗な北欧系？のお姉さんでしたー。

「目が覚めてる？ 大変、先生呼んでこなきゃー!!」
そういうと、お姉さんはそのまま走っていった。

しばらくして禿髭眼鏡の白衣の先生を連れて来てくれた。

「君、大丈夫かね。声は聞こえるかね？」

『ハ…い、だい……ジョーぶ……でス』

先生の問いかけに答える俺。

でも、何かおかしい。先生も変な顔してる。

何がおかしい？ 俺のしゃべり方？ 発音？ なんかヘンだったよな。

まるで、外人が日本語をしゃべってるみたいなの、変なイントネーション。

…あれ？ そういえば、さっきから先生も看護師さんもしゃべってるの日本語だったか？

考えてると、先生が話しかけてくる。

『君ハ、ニホン語を話せるノカイ？』

『ここ…は…にほん、で……しゅウ？』

錯乱しかけの頭で答えた。

やっぱり、日本語がしゃべり辛い。そして、今気付いた。この声変わりもしてないような声は何だ？

「ハハハ、グリーン君、ここはロンドンだよ。君はまだ夢の中にいるようだね。もう大丈夫だ、ゆっくり休みなさい」

先生が笑いながら、薬を打つ。

間違いない。彼がしゃべったのは英語だ。

でもなぜ？ 俺は英語は大嫌いだったのに、何故こんなにはつきり理解できる？ グリーン？ 違う、俺は一郎だ。

何故？ 何故？ 何故？

混乱した頭が、また混濁してくる。夢だ。これは夢。グリーンな

んて知らないし、俺は英語も理解できない。・・・これは夢・・・
次起きた時は・・・に・・・ほ・・・ん。

結論・・・夢じゃありませんでしたー。

次の日（だと思う。どのくらい寝てたかわからない）のこと。昨日の看護師さんと先生が来るんだもの。

試してみたら、普通に俺も英語喋れるんだもの。

窓のガラスに移った自分の顔が13〜4くらいで金髪の男の子な
んだものー。

『マジデすか…』

僕の心底からの心の叫びはつぶやきとなって儚く消え去った。

何とか心を落ち着かせて、先生の話を聞いてみる。先生が言うには、僕（外見に合った一人称にしてみた）は急に高熱を出して病院に運ばれてきたらしい。

父の名前はブルーノー・ワイアット、母の名前はオーランジュ・ワイアット。

ここまではよかった。でも、ここからが色々ややバ過ぎた。

僕の名前は：グリーン・ワイアット。

「そう、思い出したかね？ 君の名前はグリーン・ワイアットだよ」
先生の言葉が頭の中で響く。

グリーン・ワイアット？

この名前知ってるぞ。そうだ。ガンダムだ。0083だ。星屑だ。

確か、0083で戦艦に乗ってたよね。

紅茶好きだよね。

シーマ様と陰謀してたよね。

最後、核の炎で焼かれてたよね。

：同姓同名だ、うん偶然だよな。第一、今はAD（西暦）2015：だよな？

恐る恐る先生に聞いてみた。

「先生、今まだ少し頭が混乱してるようなんですが、今年は何年で
すか？」

「今年？ 決まってるじゃないか。U・C・0055（ダブルオー
ファイティンファイブ）だね」

髭眼鏡の先生は朗らかに言ってくれた。

宇宙世紀（U・C・）キタコレ。

ファーストガンダムの世界ですネそうですね。

星屑の記憶は0083だから・・・あと28年の人生ですか
そう
ですか。

「グリーン君、大丈夫かね？ 顔色が非常に悪いぞ。まだまだ病み
上がりだし今日はこのくらいにしておこう。まだ、記憶も混乱して

いるだろうしね。ゆっくり休みなさい」

にこやかに語りかける先生の言葉は僕の耳には入らず、僕の頭の中では絶望的な未来を反芻していたのだった。

…彼は、生き延びることが出来るか？

第1話 僕の名前はグリーン・ワイアット（修正）（後書き）

※今回、『』は英語（UCにある共通英語？）で『』は日本語という意味で区別しております。

また、主人公の父母はオリキャラです。名前は混ぜたらグリーン（緑）になるのはブルー（青）とイエロー（黄色）なので・・・ブルーノーとオーランジュ（フランス語でオレンジ色）にしました。

その他、次回よりあとがきで色々な設定を補足していこうと思います。

第2話 現状確認。

皆さんこんにちわ。グリーンです。

衝撃の事実発覚から一週間が経ちました。

当初は、理解しがたい現実から色々目を背けたりしていました。しかし、人間って慣れる生き物なんですよね。徐々に前世（仮定）とグリーン少年の記憶やら意識やらが混ざりまして。

一週間経ってみれば見事に自分自身のことをワイアット少年と認めてしまいましたよ。

そうそう、このグリーン少年。金髪に細面、細めの目の目尻が少したれた、なかなかの美少年です。

年齢は12歳。前世で言うとまだ小6ですよ。まあ、28年後には、史実どおりならば無能ですが。核の炎ですが。

そして我がワイアット家は大英帝国期からずっと続く軍人の家系。ウン代前の先祖はネルソンと共に戦ったとか。将来の軍人の道は両親の圧力ゆえすでに確定です。死亡フラグが一步前進しました。

とりあえず、今しなければいけないのは現状確認と、前世の記憶がなくなる前に危険の表記。

現状：グリーン・ワイアット少年12歳。数年後には連邦軍士官学校の受験確定だよな…。まじめに合格して軍人に目指すか？ どうしよう…。とりあえず保留だな。

次ぎにこれから起こりうる危険だけでも。

まず、危険なのは一年戦争。これ乗り切らなくちゃ話にならない。

一年戦争開始時に各サイドにいればほぼ死んじゃう。サイド6の中立もポケ戦みたいなことがあったしな。下手にアイランドイフィッシュとかにいたら、毒ガスで死んじゃうし。

オーストラリアや各国の沿岸沿いの町も危険。コロニー落としとか津波とか起こったはずだからね。そして、内陸部は欧州戦線は何とかギリギリたたき出されずに住んだんだよね。イギリスはジオンの手に落ちなかったはず。でも、ヨーロッパから中央へ東アジアにかけてやら北米やらアフリカやら、かなりジオンに占領もされてたわけ。占領地になる＝戦争に巻き込まれかねない、だからなあ。映像思い出す限り、ニューヤークとかえらいボロボロになってたしなあ。下手な大都市とかにしているとガウやらなんやらの戦略爆撃とか有りそうだし。

：こうなると、安全なのって月面都市群とか木星開発公社なんかの外宇宙方面しかないか、これ。

後は、史実で僕が死ぬ0083のことと、生き延びた場合にも備えてZやZZ 逆シャアまで覚えてることメモしとこう。ヘボン式ローマ字で書いたらパツと見じゃあ、他の人には英字の羅列にしか見えないだろうし。

それにしても、今、僕は12歳なんだよなあ。この時分の前世って何やってたかなあ。こんな頭禿そうな悩みなんてなかったしなあ。

：あれ？ 今、12歳：28年後は：40歳。

えーと。落ち着け、落ち着くんた。

確か、史実では0083のコンペイトウでの観艦式で死んだよな。で、そのときの階級は確か大将。

：は？ 40（下手すりゃ39）で大将？ ってーか、あの顔で

40かよ…あー、たしかに、ジャミトフよりはど見ても若い顔だったな。シナプスよりも若そうだったし。バスクと同世代くらい？

もしかして、ワイアットってめっちゃ優秀じゃね？ 頑張ればいい線いける気がしてきた。

ヤル気出てきた。頑張って死亡フラグへし折ってやる！！

…彼は生き延びることが出来るか？

第2話 現状確認。(後書き)

ワイアットの年齢をかなり若くしてみました。
で、死亡フラグとか考えてみましたけど、この時代って死亡フラグ
のほうが多いんですね。人口半分とかなっちゃってるし。

第3話 士官学校受験！

どうも、グリーンです。16歳になりました。

いろいろ考えた結果、士官学校を受験することにしました。いえね、ホントは受験したくなかったんですよ？ でも、親の期待とか伝統とかのしがらみとか、あと、頑張れば一年戦争も安全なところにいられるかもとか。まあ、ジャブローのモグラになりたいだけですけども。

なので、今回受けるのは、兵站補給科。ロジスティクス。これに受ければ前線勤務は確率が下がります！！

お父さんはどうやら戦略戦術研究科から戦術研究専攻に進んでほしかったみたいですけど。

「我が家はネルソン提督以来…」とか

「兵站は確かに重要だ。しかし、船乗りこそが我が家系…。」とか言っていましたけど。

笑顔で全力拒否させていただきました。

まかり間違っても、戦略戦術研究科にいつて将来は戦隊とか艦隊指揮なんて勘弁ですね。開戦時にコロニー守備隊だったりとか、ルウム戦役に参加したりとかすればまず死んでしまう。

まずは、この回避を目指して頑張らましょー。

で、見事にナイメーヘン士官学校に合格。合格通知が届いたよー。

試験自体は基礎体力やら学力やら世界情勢の分析に関する論文やらでした。

やっぱりグリーン君の元の高いのか、勉強はすらすら出来るようになってたので、試験勉強はとても楽でした。

さてさて、合格通知を確認。グリーンワイアット戦略戦術科に所属：あれ？ 僕が受けたのは兵站補給科のはずなんだけど…？ どうゆうこと？ とりあえず電話電話。

「RuRuRu… ハイ、こちらナイメーヘン士官学校入学事務課です」

電話の向こうで鈴を転がすような声が聞こえてくる。

「あの、先日、入学試験を受けたグリーン・ワイアットと申しますが。今日届いた合格通知の記載に誤りがあるのですが…」

「はい、少々お待ちください。：申し訳ありません。本人確認のため受験番号、生年月日、氏名の綴りをお願いします」

「受験番号E F F × × × × ×、生年月日U・C・0043 ×月×日 綴りはG・r・e・e・n W・y・a・t・t グリーン・ワイアットです」

「本人確認しました。戦略戦術研究科合格のグリーン・ワイアットさんですね。合格通知の記載間違いとは、何がありましたか？」

「いえ、僕が受験したのは兵站補給科のはずなんです。願書にもそう書いたし、受験票もそうなっているのですが」

「：少々お待ちください。ああ、受験票送付日後、願書に間違いがあったとして修正されてますね」

「…え？ どういうことですか？ 修正した覚えはないのですが」
「えーっと：あ、ありました。お父さんのブルーノー・ワイアット海軍准将が士官学校にこられて、願書の間違いを修正なさったはずですが…」

『ば、馬鹿親父…』

ついつい、ここしばらく使うこともなく忘れかけてた日本語口走っちゃったよ。

「え、どうされました?？」

「いえ、何でもありません。それより、その修正は間違いなんです
が、兵站補給科に転向とか出来るんでしょうか?」

「すでに試験結果は確定してますし。…残念ですが無理です」

「…そうですか…どうもありがとうございました…」

電話が終わった瞬間、僕は真っ白に燃え尽きていた。せつかく死亡フラグ回避のために頑張ってるのに。

そして、忘れてるかのように怒りがこみ上げてくる。

その夜、僕はこの体に転生して初めて、父親と肉体言語で語り合いました。

…彼は生き延びることが出来るか?

第3話 士官学校受験! (後書き)

父、正面戦闘がダメなら搦め手です。

権力も生かした搦め手です。

無茶っぽいけど、まあ、ネタ優先で勘弁してくださいな。。

第4話 士官学校入学式のこと（修正）

おはようございます。グリーン・ワイアットです。

と、言っても、今は朝10時過ぎだから早いこともないんですけども。

今、僕・・・いや、私はナイメーヘン士官学校の入学式の真っ最中です。なんか、白髭のおっちゃんが前で演説ぶってます。

（演説中）

なんか、演説白熱してきたな。あれ、よくみたらレベル將軍なんだよな。額に青筋浮かべてしゃべってるけど、大丈夫かあれ？ 血管切れそうな顔してるぞ？ 何々、何の話してるんだ？

「私はこの目で、試験の状況をつぶさに見てきた。君達以上に我々も疲れている。先日 of 試験とその採点も、教官にとってはギリギリのことであつたのだ。君達も苦しいが、我々、教官も厳しい。我らに残された人員や予算はあまりにも少ない」

あれ？ これって祝辞じゃないの？ なんか、教官の愚痴になってる気がするんですが。教官、人員不足なの？ この学校、資金不足なの？ ってか、この演説ってかの有名な「ジオンに兵なし」の演説じゃねえの？

あ、教官陣、大いにうなずいてる。・・・って5人しかいないよ

うに見えるのはなんだろう？常駐してるのが5人で、残りは現役軍人の臨時教官ばかりなのかな？　そら、あの人数じゃ足りないだろうなあ。

来賓とかは思いっきり気まずそうにしてるし。あの人たちが予算削ってるのかねえ？

なんか、色々突っ込みどころかに考えてるうちに式は進んでたみたいで。

「これより、名前を呼びます。呼ばれたものはその場に立つように。」

戦略戦術研究科 グリーン・ワイアット！」

「ハイ！」

いきなり名前呼ばれたよ？　びびったー。…あれ？　何で皆さんそんなに私に注目を？　教官ズの視線やら、周りの級友（予定）達もざわついてるし。まるで、福本漫画みたい

何でこんなに注目されてるんだろ。…お、なんかギリギリ聞こえる範囲で噂が。

ざわざわ……

「あいつが、入学試験のトップか」

ざわざわ……

「あいつの入試の論文、教授陣も大絶賛だったらしいぜ」

ざわざわ……

「なんでも、噂を聞いた北米の某企業がスカウト狙ったって話だ」

は？
何ですかそれ？
そんなの初耳なのですが。いったいどゆ

ことー?!

私の頭の中が真っ白になっている間にも式は進んでいたみたいで。

「戦史学研究科 ……」 「ハイ」

「戦史学研究科 楊 文里！」

「はい。」

最後に呼ばれた黒髪の男がめんどくさそうに立って。

「以上、今期候補生、250人！」

「諸君、おめでとう。これから、君たちは栄えある連邦軍士官候補生だ。諸君らの健闘に期待する」

レビルのおっちゃんの言葉で式は締めくくられましたとさ。

式典が終わった後で、入牢式：もとい、入寮式とか先輩の方々からの歓迎とかありましたが、特に変わったこともなく。：一部で福本漫画だったような気がします。

あ、そうそう。寮で同室になったのは戦史学研究科の楊 文里（よう ぶんり）君でした。彼は、おさまりの悪い黒髪で、ぐーたらで、売れない物書きか若手のビンボー研究者って感じですよ。まだ十台なのに老成した雰囲気も持ってますねえ。

正直、生まれてくる時代が数百年単位でずれてて、生まれてくる世界も間違った人だと思いましたよ。
ってーか、何で彼がここにいるんだ。

・
・
・
かれは生き延びることが出来るか？

第4話 士官学校入学式のこと（修正）（後書き）

ガンガンにネタに走ってます。
基本ノリと勢いなので。

第5話 士官学校訓練 1年次

こんにちわ、グリーン・ワイアットです。

「ごらあ、ワイアット候補生！声がでとらんぞ！」「さー、いっさー！」

「だから聞こえんちゅうとるだろうが！」「さー、いっさー！」

「どうやら訓練メニユー、まだ増やしてほしいみたいだな！！！」
「サー、ノー、サー！！！」

「ちゃんと声がでるじゃねえか。罰として全員追加で5周な？」

ああ、あちこちからうめき声とこちらを睨む視線が痛い気がします。

現在、絶賛地獄の30kg装備マラソン中です…。

私の横に、某監獄で獄長やってそうな顔と体をした教官（通称トロールサージャント）がベタ付きでいます。

あ、同室の楊君^{よう}はいつも、教官に怒鳴られない程度に何でもこなしてます。このマラソンも、最後方でなんとかか付いてきてるみたいです。…普通教官って集団の後ろなんじゃないの？ 遅れたやつ尻蹴っ飛ばすんじゃないの？ 2番手集団の俺の横にベタ付きしてるのさー？

なんか、入試と入学式のこと、教官に目をつけられたみたいです。

「さあ、クソ虫ども、声出せよ？いくぞ！！」 『サーイエツ
サー！！』

「ファミ○ン○オーズが出るぞ」 『ファ○コ
ンウォー○が出るぞ』

「こいつはどえらいシミュレーション」 『こいつはどえ
らいシミュレーション』

「のめりこめる！」 『のめりこめる！』

「のめりこめる！」 『のめりこめる！』

「母ちゃん達には内緒だぞ」

『母ちゃん達には内緒だぞ』

「のめりこめる！」 『のめりこめる！』

「のめりこめる！」 『のめりこめる！』

なんか力でません。ってか何でこの歌なんだよ！もっと、政治的な歌（敵国の元首けなしたり）とか卑猥な歌が定番じゃないのかよ！！何でファミコ○ンウ○ーズの宣伝の歌なんだよー…。

（※作者注 ガンダムの世界での政治的な歌は主義者の方が怖いので中止しました。同様に卑猥な歌は露骨な性器描写、行為描写があるので止めにしました。残ったのがこの歌だけです。ホントですってば）

午前の殺人的な基礎トレーニングが終わると、午後は座学です。

今日の授業は戦史学概論。同室の楊君、おお張り切りです。めっちゃ楽しそう。

前に楊君に日本の戦国のお話（長篠の戦や信長の政策など）を話したらめっちゃ食いついてきました。やっぱり歴史が好きなんだなあ。

ま、それはおいといて。個人的に今日のこの授業は寝てたいんです。というか、眠たいんですよ。体力的に。

しかし。そうは問屋が卸さなかった…。教官が：レビル校長なんですよ…。って、なんで校長が普通に指導してるんだYO！

「教官の人員が不足しててね。入学式でもあれだけ訴えたのに、今年も予算が増えなかった。まったく、ジャブローのモグラどもめ：（ぶつぶつ）」

「レビル教官、愚痴になってますよ。それと人の心読まないでください。：にしても、校長がじきじきに指導しなければ教官が足りないってどうなってるんです？ 教育の充実は重要課題でしょうに」

レビル教官に突っ込みを入れてみると。

「うむ、グリーン君の言うとおりだ。教育は重要なことだよ。大方、私のことを嫌ったモグラ共が嫌がらせに圧力かけてるんだろう。もともとはやつらがこの職に左遷したくせに：（ぶつぶつ）：ごっつぶ殺す：（ぶつぶつ）：絶対、死ナス：（ぶつぶつ）」

あ、ヤベ、変なスイッチおしちゃったかな？ レビルのおっちゃん、ストレスたまってるんだなあ。

「あ、グリーン君、教官をおっちゃん呼ばわりとはいい度胸だ。後で校長室に来なさい」

「だから心読まないでええええ!!」

校長室で3時間、壁に向かって正座をさせられながら延々と反省文を書かされました…。

…彼は生き延びることが出来るか？

第6話 土官学校訓練 2年次（前書き）

第6話 士官学校訓練 2年次

こんにちわ、グリーンです

士官学校も2年次に入りましたよー。え？ 1年次の成績？ 大体上位占めてます。ただ、戦史学は楊君がトップだったり、好きな人たちには一步届かない感じですねー。

あ、でも情勢分析の授業ではトップでした。死亡フラグおるためには情報は必須ですから。

そうそう、私がこの世界についてからの動き、色々ありましたよー。2年前の0058にサイド3がジオン共和国を名乗って独立宣言しましたし。それに対して、連邦政府は去年に経済制裁みたいなことやってましたねー。今の私の状況では、何の介入も出来ないから放置ですけども。

今年は何かイベントがあるんですかねー？

そういえば、2年次から図上演習が科目に入ってきましたよー。これがまた楽しい。部隊や船の能力が書いたカードを筐体の上に滑らせてカードに入った磁気チップを読み込んで、画面上を部隊が行き来する…って、まるきり三〇志大戦やないかい！！もしくは戦国○戦。

「うむ、ジャパンの技術はすごいね。こんな高度なリアルタイムシミュレーションを開発するんだから。」

だから、レビル校長、人の心読まないでって言ってるでしょうが…あれ？

「レビル校長、何でここにいるんです？」

「君たちの図上演習があると聞いてね。見学させてもらいにきたよ。グリーン君、楽しみにしているよ。そら、君の番だよ。」

校長に促されて席に着くと、対戦相手が表示され……って、楊君か。初対戦だなあ。

戦力は……と。

コーラル級重巡洋艦（旗艦）1、旧サラミス級護衛艦3、旧サラミス改装電子艦1、トリアーエズ戦闘機隊3

勝利条件……4部隊（艦）以上の損害もしくは旗艦の撃沈。

戦場は……暗礁空域かよ。索敵が第一として……旧サラミス級護衛艦の遠隔操作式レーザー衛星とか、使えるのか？ コーラル級も、主兵装が誘導ミサイルだし……。主力は旧世紀と同じく、戦闘機かねえ。とりあえず、コーラルを中心に左右と前に護衛艦（衛星展開済み）広報に電子艦、トリアーエズは高速移動ができるからやや後方にまとめて3機……と。

相手も主力は戦闘機だろうし、相互支援とレーザー砲台で何とかしたいところだな。

とりあえず、このまま進行……と、レーダーに反応？ ジャミング

？ もともと浮遊物でレーダーがほぼ利かないのに……ジャミングまでされちゃうと……ああ、やっぱりレーダーが完全に機能停止だわ。

ま、相手ばかりに目をつぶさせるわけにもいかないし、こちらも電子艦で、全力ジャミング、と。用心用心……って、アラート？！ 側面よりミサイル飛来？ 個艦回避は成功。敵はコーラル級に護衛艦

2隻か。

機関おとして索敵にからないようにしてたのか？ あ、途中になり大きな岩隕があつて影になつてたか。

残りの敵が不明なのが嫌なところだけど、単純に見えてる数でこちらが多い。戦闘機隊に回りこませつつ艦隊動かしますか。…注意は岩にベタ付きで隠れてそんな相手の戦闘機って所かね。岩にレーザー衛星向けつつ、艦隊移動っと。

…敵艦隊発見。コーラル1護衛艦2。ここは一気に、っと、アラート。やっぱり岩裏に戦闘機が…って、護衛艦と電子艦？ やば、レーザー衛星程度の火力じゃダメージが低すぎて…ぎゃあ、相手がレーザー衛星突っ込ましてきた?! ここで質量兵器かよ。くっそ、こっちの戦闘機隊は…あ、だめだ。相手の戦闘機隊と空戦中ですか。

ミサイルは無誘導状態、まともに使えるのは艦首の高出力レーザーだけ…。こっちの5隻は固まつてて相手の5隻は後方2、前方3の挟み撃ち状態…相手の電子艦が後方に近すぎて遠隔誘導系兵器の命中はほぼなしの撃ちっぱなし状態。おまけに敵の質量兵器攻撃でこちらの艦は損傷がちらほら。

あ、後方に置いた電子艦損傷、電子戦能力低下…。

実戦ならこの時点で降伏か撤退したいところだけどなあ。演習だし逃げられないんだよなあ。

…このまま挟まれてもただやられるだけだしな…、よし、全艦突撃。目標敵旗艦1隻のみ。

相手は護衛艦がレーザー衛星を盾の様に展開か、よしこちらは単縦陣に変更、蟻の一穴あけてやる。

相手のレーザー衛星ピケットライン突破、よし、このまま5対3で敵の旗艦に集中すれば…って、あー、ミサイルアラートお？ 妨害…失敗か。あー、旗艦コーラルに対艦ミサイル着弾 判定大破。

演習終了。あー、負けた負けた。楊君は戦術シュミレーター、ほんとに強いんだよなあ。絶対、別作品の、「魔術師」だよなあ。戦術シュミレーターで楊君に負ける、優等生って…いたなあ。あいつも戦死してたよなあ。

やっぱり、戦死確定なのかなあ。

…彼は、生き延びることが出来るか？

第6話 士官学校訓練 2年次（後書き）

巡洋艦コーラル級 各文献にちらほら出てくる謎の船

兵装 誘導ミサイル 実体弾対空砲 低出力艦首レーザー×4

旧サラミス級護衛艦 ガンダムユニコーンでラプラス事件のときに
描かれた警備艇兵装 艦首高出力レーザー 展開型レーザー砲台衛

星×24

旧サラミス^{オリジナル}改装電子艦

兵装 艦首高出力レーザー 高度電子戦装備

トリアーエズ航宙戦闘機 取り合えずから名前が付いた、ガンダム
史上最弱機。

兵装 多目的ミサイル×2 25ミリ機関砲×1

楊君ネタは完全にネタです。楊君、まだともに会話させてないし。
学友いたほうが良いかと思って突っ込んだけど、いらなかったかな
^^;

第7話 士官学校訓練 3年次

こんばんわ、グリーンです。

士官学校もついに3年次です。ついに宇宙に出てきました。シャトルでルナツーに移動中です。

「おー、これが宇宙艦隊の基地になるルナツーか。」

「将来ここに配属されるのかな？」

「宇宙も宇宙基地もはじめてだー。」

「こら、総員静かにせんかつ。お前ら、ナイメーヘンの恥をさらすなっ!!」

級友達とともに窓から見えるルナツーに興奮していると、トロールサージャントから怒鳴り声が響きました。

「まあ、しょうがあるまい。あれは連邦がもつ初めての宇宙要塞だからな。かくいうわしも、ルナツーに入るのは初めてな。少し楽しみにしておるよ。」

さすがレビル將軍閣下、いいとりなしをしてくれる。と、にやけていたら。ギロリとこっちを見られました。嫌な予感。

「グリーン君、問題じゃ。ルナツーとは何か、解説してみなさい。」

やっぱりか…。そうそう、今期のナイメーヘン士官学校世代は「レビル・チルドレン」と言われてるらしいです。つまり、将来の「レビル閥」確定なわけですね。涙が出そうです。

「グリーン君、どうしたんだね？」

「あ、いえ、何でもありません。」

このレビル將軍、人の心読むから怖いんですね。つと、いらんことは考えずに。

「ルナツ―は、もともと小惑星ユノーと呼ばれておりました。確か、0045年にアステロイドベルトから、コロニー資材採掘用として月軌道上に運ばれてきたはずです。そして内部鉱物資源を大部分掘りつくし、月軌道上という要地から先年、0060より連邦宇宙軍月軌道要塞として改装中…以上だったと記憶しております」

「うむ、模範解答だな。見事だ」

「ありがとうございます」

緊張を解いてあらためて窓の外を見やると、巨大な岩塊…というにも大きすぎるモノが目についた。

なんだかんだで、ガノタにとっては幸福な一瞬だったり。そう思っていると

「優秀な士官候補生殿、ルナツ―がそんなに気になりますか？」

「不真面目な士官候補生殿、君は気にならないのかい？」

楊君が茶化すように話しかけてきたので切り返す。

「気にならないといえば、嘘になるね。」

おや、彼があっさり後退するとは…？

「そんな不思議そうな顔しないでいいだろう？ 将来の勤務地かも

しれないんだから。それより、僕としては君のほうが不思議だよ。何か、懐かしいようなものを見る目でルナツーを見てる。どういう心境なのか、是非聞きたくてね」

げ、何でそんなに感じがいいんだ、この魔術師め。鈍感が君の持ち味だったんじゃないのか？

「特別なことは何もないよ。単にこの景色に感動しているだけさ。

それに、宇宙要塞って言うものがどんなものか、楽しみじゃないか。超大型の要塞砲で、難攻不落の大要塞ってね」

「：ふうん、ま、君が言うならそういうことにしておくか。にしても、大要塞ね……。古来より……」

「難攻不落と歌われた要塞でも、陥ちなかった要塞はない。それが人の手によって創られたものである限りは、かい？」

「その通り。グリーン、君は良く人の言葉を先読みするな。最後まで言わしてくれよ。」

まあ、ガノタだったけども君が出ていたスペオペも好きだったからね。

「ハハッ、すまない。でも、人の心を読むのはレビル校長にはかなわない。」

「それは、間違いないな。」

そりゃまあ、レビル校長はぴきーん、って来る人だからねえ。ホント怖いお人ですよ。

などと、つらつら考えながら雑談をしているうちに、ルナツーについたのでした。

∴彼は生き延びることが出来るか？

第8話 士官学校訓練 最終年次

こんにちわ、グリーンです。

時間が経つのは早いものです。士官学校も、もう最終年次です。

前回の3年次の時は、その後、実習生で訓練航海にできました。その訓練内容はすべて隠しカメラで録画、教官に公開されました。「教官はいない、俺たちの天下だヒャッハー!!!」ってしてたトコはみんな後悔してたみたいです。公開される航海で後悔、なんちて。

ちなみに、私が指揮する艦（なぜか艦長になってました。なので楊君を無理やり副長にして仕事押し付けたりしました。恨まれました）では、諜報技術科のハットリ・イガノ君が速攻でカメラを発見、逆に侵入をかけて偽のカメラ情報を流したりしてました。

イガノ君のおかげで、非常に楽しい航海でしたよ。でも、彼は顔がよく見えないんですね。いつも帽子を目深にかぶってたりして、ちやうど見えるのが鼻の辺りまでで。でも顔にいつも絆創膏張ってるから、知ってる人はすぐわかるんですね。

…彼が絆創膏の男の気がしてならないのは気のせいでしょうか…？

あと、楊君所属の戦史学研究科が予算不足でなくなりました。楊君は珍しく頑張って、研究科廃止撤回の署名を集めたりしましたが、ダメでした。

彼はもちろん、戦略戦術研究科に来ましたよ？ 優秀な指揮官ゲット。…そういえば、楊君が連邦にいらってことは、ジオンには金髪小僧とか赤毛ののっぽさんとかいるんだろうか？ いたらやだな

あ…。

まあ、そんなこんなしてるうちに卒業式です。卒業式です。卒業式のはずなんです。

何で、レビル校長と来賓の軍人さんが取っ組み合いのけんかしてるんでしょうか？なんか、あの人も見たことある気がする。見た目は…すらっとして、オールバック。あれ、誰だろ、何か、引っかけてるぞ…楊なら知ってるかな？

「なあ、楊くん、あそこで校長とつかみ合ってるの誰だっけ？」

「あれは…レビル校長の同期のゴップ少将じゃないかな？」

「ああ、あれが後方支援の専門家で有名な…。って…！！」

「どうかしたのかい？」

「いや、なんでもない」

不思議そうに聞いてくる楊君をごまかしつつ、ゴップ少将を見やる。あ、校長の髭つかんでら。

あんなにすらっとしてるのに、20年近く経ったら狸みたいな顔に変わるんだよなあ。時の流れって残酷。

少々すったもんだはあったものの、卒業式任官式と進んで、今日の式典は終わって。

辞令が届くまではちよっただけ自由の日々とか浮かれてましたが、そうは問屋が卸すはずもなく。

あれ…・式典終わったのにゴップ少将がまだいる…あれ？　こっちに向かって歩いてくるよ。嫌な予感。こういうときは回れ右して緊急かいh

「君がグリーン・ワイアット君かね？」

「ハイ、そうであります。少将閣下！」

捕まりました！。

「そう硬くならなくていい、少々君の顔を確認しておきたくなったのですね。レビル・チルドレンの首席君」

うわー、すごい物理的に殺傷能力ありそうな目で見られてるんですが。ってか、この人、こんな鋭い目をする人だったのね。

「レビル・チルドレンとは何のことか寡聞にして存じませんが、光栄であります。閣下！！」

「…ふむ…まあいい。戯言だよ、気にしないでいい。君は優秀だと聞いている。これからの君の活躍を期待しているよ。頑張りたまえ」
「ありがとうございます。閣下。」

眼光は鋭いままでマジでちびりそうだったんですけども、何とか解放してもらいましたよ。にしても、『あの』ゴッブ將軍がこんなに怖いとは…腐っても大将まで昇進するだけのことはある、か。

…かれは、いきのびることができるか？

第9話 少尉任官と辞令（あとがき修正）

皆さん、こんにちわ。グリーン・ワイアット少尉であります。

士官学校を卒業して、はや二ヶ月。今、私はニホンにいます。そう、日本です！！ニホンはチバのナラシノにきています。

…勘のいい人は気付いたかな？ 今、地獄の中にいます。旧世紀からの伝統を引き継いだ部隊です。ナラシノ第一空挺団（別名…第一狂〇てる団）

何で、こんなトコにいるんでしょうか、私は。

「ワイアット少尉！貴様、たるんどるぞ！」

「サー、コジマ中尉、了解であります！！」

あ、僕の直上の上官はコジマ中尉殿であります。小柄で眼鏡かけたインテリ風なんですが…クラーが嫌いで体が動かすのが大好きなレンジャー徽章・空挺徽章その他もろもろ持った殺人機械殿であります。

ただいま軍隊式格闘術の訓練の最中ですが。開始5分で20K i l l ほどされました。だって、この人、瞬きした間に殺してくるんですもの。

「瞬きのタイミングが単調だ。お前が瞬きした間に3回は殺せるぞ！！」

とか言って来るんです。無理ですって。

ってか、この人、後のコジマ大隊長どの…だよね…。
とか考えてると、いつの間にかコジマ中尉殿がいない…？　と思
ってたら、何か腕が背後から伸びてきました。あ、ダメ、落ちる…。

皆さん、こんにちわ。グリーン・ワイアット少尉であります。
昨日は合計で500Kiilほどコジマ中尉にいただきました。
なので今日は休暇であります。

「ワイアット、昨日はやりすぎた。侘びに朝飯おごってやる、付い
て来い！」

「ありがとうございます、中尉」

朝っぱらからコジマ中尉に拉致されました！。拒否権？　そんな
ものもちろんございませんよ。

で、ついた食堂は、いかにも大衆食堂的なトコで。ああ、懐かし
い涙が出そう…。

なんて、感慨にふけっているとコジマ中尉が

「朝定　2つ」

「あいよ、…そっちの金髪さんは大丈夫かい？」

「俺の飯が食えないわけはないさ、ガハハハ」

なんか、勝手に注文してくれたみたいです。

で、しばらくまっけると、トレーが運ばれてきて。

「ワイアット中尉、これが正しい日本の朝飯だ。食えるよな？ イギリスのお貴族様はこんなの食ったことあるか？」

コジマ中尉がニヤニヤしてます。トレーの上には、銀シャリ、味噌汁、沢あん、鰯の丸干し、納豆と並んでいます。

ふふふ、いぢめのつもりかな？ だが甘い。甘すぎるー！！もともと転生前は日本人、全部大好物だぜヒャッハー！！

つか、旨いです。旨すぎます。やっぱり俺は日本人だなあ。ついついご飯お代わりして、心ゆくまで楽しみました。コジマ中尉にも心からお礼言いましたよ。

コジマ中尉は最初あっけに取られてましたが、あまりに旨そうに食べる姿に毒気も抜かれたみたいで

「今度は寿司おごってやる！！」

とか言ってくれました。

ニホンでの勤務は、楽しいものになりそうです。

…彼は、生き延びることが出来るか？

第9話 少尉任官と辞令（あとがき修正）（後書き）

というわけで、まずはE F G F（連邦陸軍）基地に配属になってます。

ここで、感想でも突っ込みいただいたので、何故彼が現在陸軍配置なのかを説明。

彼は士官学校でも戦略戦術科にいました。これは宇宙軍・海軍・陸軍・空軍の総合エリートを要請する科です。パイロットや航法官、機関員などの各軍での専門職ではなく、総合の指揮官としてのコースにいます。

つまり、任官時にまだ、どの軍を専門にするか決まってませんので各軍半年程度の持ち回りで下っ端でこき使われて、その途中、もしくは全軍を回った後に適正のある軍に引っ張っていかれます。

士官学校の描写が宇宙軍関連の描写ばかりだったのはそういう点でミスでした。

申し訳ありませんでした。

第10話 キャリフォルニアロール（題名意味無し）

皆さん、こんばんわ。グリーン・ワイアット少尉であります。

私は現在、キャリフォルニアベース（海軍基地）に配属されております。いやー、キャリフォルニアベースは多数の基地（陸海空）の複合体と聞いていましたが、大きいですね。あ、そうそう、ここ
の陸軍基地には2年前に正式化された61式戦車1型が優先的に配備されてるらしくて、見学もしましたよー。

ようやく、ガンダムで見たものを確認できましたが：全高4m、全長11'6mのあの巨体すらMSが出てきたら蹴り飛ばされるよ
うなもんなですよね。くわばらくわばら。

そうそう、軍港のほうでは攻撃型原潜U-？型がありましたよ！
！そう、わかる人にはわかる、ユーコンです。ヨーロッパのほうには最新鋭のヒマラヤ級空母とかあるらしいですけど、こっちでは旧
世代の旧USAの原子力空母が今も現役なんですよねー。：何年前
の代物だよ、これ。

あー、ぶっちゃけ海軍には行きたくないので、仕事にあまり身が入
っておりません。今ものどかに潮風を浴びています。

一年戦争に関係しそうな人たちもいないし。というか、海軍は死
亡フラグだし。

太平洋艦隊↓コロニー落しの津波で全滅

大西洋艦隊↓水中用MSで全滅

こんな職場やってられっかい！！

せめて、陸軍や空軍なら戦局に影響とか死亡フラグ回避とか狙えそうだけど、海軍は死亡フラグしかみえねーつつーの。

でも、実家からの圧力は大きいんだよねえ。絶対に、拒否するけどな！！

…ハッ…こんなことを士官学校の入試のときにも言ってた気がする…。

怖いけど、親父様の権力（海軍准将）考えたら可能性はあるわけだよな…。

どうする？ どうするよ俺？ 誰か俺にライフカードを見せてくれ！！

…つまらないこと考えてないで回避方法考えておこう。

悲観的な考えはこのくらいにしておいて。

それよりもなによりも、日本が懐かしいです。

というか、日本の食事が懐かしいです。寿司すき焼き天麩羅納豆卵かけご飯にお味噌汁と香の物。

コジマ中尉殿には散々お世話になりました。まあ、その分しごかれまくりでしたけど。でも、おかげでレンジャー徽章もらいましたし。最終的にはコジマ中尉相手に5分8K i l l位まで腕が上がったし。何で泣けるんでしょうかね？ ていうか、あの人埒外ですよー。ああいう人だから堂々と上官に反論言ったり、あの厳しい

戦線を戦えたんですかねえ？

∴かれは、生き延びることができるか？

第11話 大鷲の空？いえ、雀です。（修正）

こんにちわ、皆さん。グリーンワイアット中尉です。

士官学校卒業から1年。現在地はキャリフォルニアのままですが、空軍基地のほうに異動と同時に昇進いたしました。順調な出世街道ですよー。

まあ、それはおいといて。空軍です。E F A F（地球連邦空軍）です。実はここ、死亡フラグ回避のために重要だと思ってたんですよー。理由、あれですよ。初動の遅さとかがなければM Sに対抗するには空軍が一番だと思うんですよ。特に降下作戦の直後とか。

ザクマシンガンの射程外から戦略級爆撃機による高高度絨毯爆撃。

大型の無誘導爆弾や気化爆弾による広域の殲滅。

次に超音速の攻撃機複数による襲撃。

いくらM Sといっても、そう簡単に弾は当たらないはずだ。というか、レーダー連動で何百発何千発単位で弾ばらまいてるならともかく、数機のモビルスーツが手動補足で撃つ様な弾が近接信管も無しにそう当たってたまるものですか。

降下直後はそんなすぐには航空戦力も運用は出来ないと考えられるし、水際の航空兵力による敵兵力の削減はとても有効なはず。

…とか考えてたんですよ。でもね…。

戦略爆撃機はほとんどありませんでした。あっても、まじで旧世紀の骨董品でした。なんか、B-52とか書いてるんですが。製造年がA D表記なんです。…これ、動かせる人いるのかよ？

何でかと思ったら。理由としては、米欧露中他各国が参加した地球連邦が戦略爆撃機を保持する必要性がまったくない。というか、そんな大型な爆撃機を何のために運用するのか？ 無駄な金食い虫 e t c。

無誘導大型爆弾はもうありませんでしたー。気化爆弾は少数の配備はあるものの、MS含む正規軍の広域殲滅を行うほどの数も無く配備計画も無く。小型（単座もしくは副座）の戦闘機や攻撃機の装備がレーザー誘導の精密爆弾やバンカーバスター、誘導ミサイル系ばかりだった。

しかも広域破壊の必要性が現在ではほばないため、テロとの戦い（いまだこの時代でも続いていた！！）の為のピンポイント低威力兵器ばかり…。ミノ粉まかれたら意味無いってーの！

はあ、まだミノフスキー粒子が見つかってないから、しょうがないかあ。

とりあえず、空軍でもそれなりにちゃんと仕事こなしつつ、あるものでMSに対する対策考えとくか。

ミノ粉とかMSとかでたらまた、色々見直されるだろうし。今のうちに論文みたいな形式でまとめといて、0075・・・いや、0073くらいに提出できるようにまとめられますか。

それにしても、空軍にも一年戦争に絡みそうな人いないんだなあ。

連邦のエースパイロットでは戦闘機乗りから転向した人もいたと思うけど、名前覚えてないし。

まあ、ここもあんまり入りたくない気がするな。
半年間、ほどほどに頑張りましたよー。

…彼は、生き延びることが出来るか？

第11話 大鷲の空？いえ、雀です。（修正）（後書き）

お気に入り登録が気が付けば50件超えてたり、PVも知らない間に25000件超えてたり。

ノリで書いてる拙い文章、お読みいただきありがとうございます（ぺこり）

また、ご意見・ご感想、とてもありがたく戴いております。

基本、作者が適当に考えた死亡フラグ対策やMS対策などを書いてありますが、おかしいところや、こんな死亡フラグ対策もあるぜ！
！みたいなのがあればどんどん書いてください。

面白ければ採用します（え

基本的に空いた時間に勢いで書いてるので、短めの文章で特になまって無い投稿時間&投稿間隔なので気長に次話もお待ちいただけたいと思います。

では、最後に。読了、本当にありがとうございます。

第12話 ジャブローでの一幕

こんばんわ、グリーン・ワイアット中尉であります。

カリフォルニアでの勤務も終えて、現在はジャブローにいます。いやあ、空調の効いた部屋はいいものですね。：コジマ中尉の殺気を感じた気がしますが、気のせいでしょう。ウン、きっとキノセイだ（ガクブル）

まあ、それはおいといて。今、ジャブローにいるのはルナツーへのシャトル待ちなんですよね。

4年前からルナツーが軍事基地化され始めましたけども（0064年現在）まだまだ大幅に拡張するらしくて、ルナツー行きの船は混みまくってるんですよねえ。

で、自分の番が来るまでジャブローで順番待ちと。いや、個人的にはこのままモグラになりたいんですが。

でも、ここも微妙に居心地悪いですよね。

やけによく会うゴップ將軍の視線が痛かったり。というか、そのうち人為的な事故に巻き込まれるんじゃないかとびくびくしてます。

いったい私が何をしたと。や、確かにジャブローに戻ってきたレビル將軍とその一派にやけに可愛がられてるような気がします。

今も、レビル將軍とお酒を飲んでいたり。というか、レビル將軍の官舎に呼ばれて、ほいほいと付いて行ったら。

えーつと…。

向こうで話をしてるのは、ホストのレビル少将。その横にいる、レビル将軍に負けず劣らず豊かな髭の人がダグラス・ベーター准将で、すらつと目線が鋭いのがティアンム大佐…。

今、私と話をしてるのがロドニー・カニンガン中佐とジョン・コーウェン少佐…。

…えーつと、ナンデスカこの面子は。レビル派勢ぞろいですか？すでに私は、レビル派の有望な新人ですか？！

「ワイアット君、どうかしたのかね？」

「あ、いえ、このようなメンバーの中に招待されて、ちょっと驚いてしまいました」

啞然としてると、コーウェン少佐に話しかけられて。

「はは、違うない。私でも、急に呼ばれたらそうなるだろうな、このメンバーでは」

カニンガン少佐は葉巻をくゆらしながら笑い、話を続けます。

「しかし、謙遜することは無い。君はここにいる資格は十分に持つてるんだ。レビル閣下の秘蔵っ子、私も期待しているぞ」

えー、なんですかそれー。当人にとっては完全に初耳なんですがい。

確かに、士官学校時代にはレビルチルドレンとか言われてました

よ。でも、「秘蔵っ子」って…。何でこんなことに…。

「はっ、ありがとうございます。ご期待に沿えるよう努力する次第であります！」

意識とは別に、口は自動で受け答えしてる気がするよー。

「そう堅くなるな。君も飲みたまえ。これはレビル將軍のとき
の酒のはずだ。早々呑めないぞ、こんないいものは」

「ハッ、いただきます…本当に美味しいですね、これは。これは
いたい…？」

色々忘れようとお酒を口に含むと、とてもスムーズで美味しい味
わい。

ボトルを見せてもらおうと…マッカランの10年もの？ …あれボ
トル年が2040…？

「ああ、それはワシの秘蔵の！ ロドニー、貴様また勝手に開けた
な…！！」

レビル將軍の大声に、気付く。2040ってこれ西暦の2040
かよ…！！

「ワシの秘蔵のコレクション…！！！」

「見えるところに置いておくから悪いんですよ、將軍」

泣きながら怒るレビル將軍に、軽く受け流すロドニー中佐、その
間で立ち尽くす私。

もう、どうにでもなれ！。

…かれは生き延びることが出来るか？

第12話 ジャブローでの一幕（後書き）

最後は大幅なコメディーで。

これで完全にワイアット君はレビル派です。

次はルナツィか、どうしようかなー？

では皆さん、読了感謝です。

第13話 月の二丁目

こんにちわ、グリーン・ワイアット中尉です。

ついに、ついにルナツーに到着しました。：2回目ですけども。前に来たときよりも、明らかに違います。なんと言うか、設備が整ってきた感じですかね。ようやく、宇宙要塞ってオーラが出てきたかと。前見たときは宇宙要塞（笑）という感じでしたから。

あ、でも、宇宙港の入り口、相変わらず狭いな。コロンス級の補給艦が：すれ違うのでやっとか。だから、後でワッケインが戦艦で引っかかるんだよなあ。中に艦隊クラスの停泊地あるのに、こんなに簡単に閉塞できそうなのはダメだろ。

どれどれ、レーダー設備だけはいけど対人クラスの哨戒網とか微妙っぽいし、無駄な浮遊岩塊とか多すぎる。レーダー効かなくなったらどうするつもりだ？：そんなこと考えて無いんだろうなあ。

今後に上申すべき課題点だなあ。

なんてことを、つらつら考えてるうちに到着したり。

与圧されてる区画に入って、ほっと一息。えーっと、着任報告に行かないと。私の着任場所はどこだっけ？：あ、第1艦隊第5戦隊、護衛艦「桜花」っと：って、桜花はやばいだろ、色々と。嫌な予感がするなあ…。

でも、ここにいてもしょうがないし：覚悟決めていきますか。場所はおかしいし：あ、ちょうどいいところに人が。

港湾部署士官

無視する

↓ 話しかける

「あの、すみません」

「ヨウコソ、るなつーへ。ココハ連邦軍ノ宇宙要塞デス」

「第1艦隊の司令部への行きかた教えてもらえますか？」

「ヨウコソ、るなつーへ。ココハ連邦軍ノ宇宙要塞デス」

「…えーっと、第1艦隊の…」

「ヨウコソ、るなつーへ。ココハ連邦軍ノ宇宙要塞デス」

「司令部への…」

「ヨウコソ、るなつーへ。ココハ連邦軍ノ宇宙要塞デス」

「…行きかた…」

「ヨウコソ、るなつーへ。ココハ連邦軍ノ宇宙要塞デス」

…壊れたラジカセ、もしくはコンピューターRPGのNPC役の
港湾士官は放つという、と。

あ、整備士の人かな？あの人に聞いてみよう。

「あの、すみません」

「れびる將軍トごつぷ將軍ハ、トテモ仲ガ悪インダ」

「…は？」

「れびる將軍トごつぷ將軍ハ、トテモ仲ガ悪インダ」

「そんなことよりも、あの、第1艦隊…」

「れびる將軍トごつぷ將軍ハ、トテモ仲ガ悪インダ」

こいつもか！！　　ってか、ルナツーの人員はこんなばかりか？
しょうがない。

その後、迷路みたいなルナツー基地内を半日さまよった。何とか
第1艦隊司令部まで着いたら、第1艦隊は訓練航海出航中。着任報
告は後日になりましたとさ。

一言叫んで良いか？

「なんでやねん！！」

…彼は、生き延びることが出来るか？

第13話 月の二丁目（後書き）

読者の皆さん、お久しぶりです。作者です。

13話、遅くなり申し訳ありませんでした。

で、遅くなったついでに。

ここしばらくアクセス解析とか見てなかったのですが。

今日、見てみると25、26日に更新もして無いのにユニークアクセスやらPVやらがえらいことに。お気に入り登録数も、記憶にあるのは70件くらいだったはずなのに、今日見たら155件に。

この10日ほどでいったい何があったのでしょうか？！

こんなにたくさんの人が見てくれて、とても光栄でもあり怖くもあり……。

少しでも皆さんが楽しんでいただけたら重畳です。

それでは、また次話で！！

第14話 観艦式

こんにちわ、グリーンです。

今日は、本編でワイアットが死ぬ原因だった観艦式です。嘘です。あ、観艦式はあってるんですけども。

今日は、連邦宇宙軍初の観艦式なのですよ！！後々まで連綿と続く観艦式の祝うべき第1回目です。

どうしてこうなったかというと、ジオン共和国の独立宣言やら国防隊創設やらで連邦政府が腰を上げたようで。ジオンに対して脅しかけてるんですねー。見事な砲艦外交ですねー。

こうした砲艦外交やら軍事的圧力やら経済的圧力やらがザビ家の台頭やらMS開発やら生み出していった気がするんですけどねー。今の私にはどうも出来ないしー。

そんな中で、私が乗ってる護衛艦『桜花』は後ろの端っこのほうで隊列の一つ組んだりします。ぶっちゃけ、端役です。個人的には、早くルナツーに帰りたいんですけどね。

…でも、堂々と艦列組んだの見てると、かっこいいなー。

いつかは、巨大戦艦の元、中央で指揮したいなー…って、いかん、この思考回路は死亡フラグ！！元のワイアットに思考が引きずられてるのかな？ あぶないあぶない。

「どうかしたのかね、副長？」

「いえ、何でもありません、艦長」

あ、そうそう、忘れてた。私、今、この船の副長やっております。

「そうかね？ 考え事をしているようだったし、何か気になってることでもあるのかと思ったよ」

ボーっとしてただけなんです、耳が痛いなあ。

「ああ、気になってること、といえば、アレですかね」

ごまかすように、戦列の外側にある1隻を指し示すと、艦長もうなずいて。

「ああ、アレか。私たちが戦うとなれば、アレだろうから、確かに気にもなるか」

やっぱり、そうだよなあ。と思いながら、艦列から離れた1隻を見た。

艦列を離れたところにあり、ひととき異彩を放つ1隻。ジオンが、観艦式への参加者を運んできた軍艦。チベ級戦艦。

「連邦への挑戦」「新型戦艦来襲」「ジオンの科学力は世界一イイ！」など、マスコミが煽ってるらしい。あれ、なんかおかしいのがまじってる？

おかげで、軍事圧力要素のはずが、ジオンになめられる結果にもなってるかもなあ。少なくとも、そう映る面もあるんだろうなあ。

まあでも、チベ一隻に対してこちらはマリアナ級戦艦5隻含む総勢50隻の大艦隊だし予想通りの結果なのかな？

そういう風に映るかは、終わってみないとわからないのねー。

そうこうしてるうちに、観艦式も終わって、ルナツーに帰港。

そういえば、私がルナツーに到着した日に、港湾士官と整備士が酸素欠乏症で地球に送り返されたとか何とか。

あの二人なのかねえ？

…彼は、生き延びることが出来るか？？

第14話 観艦式（後書き）

今回もちょっと短いです。

暑さで筆の進みが悪いです。

追加、改稿するかもしれませんが、今回はこんなところで。

第15話 警備中？いえ、警邏です。

こんにちわ、ワイアット大尉です。0069年になりました。大尉に昇進しました。一年戦争までカウントダウン始まりました。

ただいま、第1艦隊第5分遣隊2番艦 護衛艦「桜花」（オウカ）の艦長をやってます。そしてサイド1（ザーン）に派遣されています。正確にはザーンから曲線軌道描きつつサイド3に近づいていってるんですよね。

何でこんなことになったかというと、さる0068年にジオン・ズム・ダイクンが暗殺されました。で、今年0069年の8月15日にジオン共和国の公国移行宣言が出されました。おかげで、サイド3に対する示威行動兼各サイドの安全保障（という名の脅し）のためにルナツー各艦隊がそれぞれ各サイドに派遣されてるんですよ。おまけに分遣隊を多方面に配置しつつ、サイド3に軍事的な圧力をかけるんです。

「本音で言えばメンドクサイんですけどね」

「『めんどくさい』はこっちの台詞だよ、まったく」

「あ、声に出てた？」

ついうっかりってヤツですね。で、私の独り言に反応した、副長を見ると、ものすごく睨まれてたり。おさまりの悪い黒髪をかきながらとても不満げな顔でこちらを見てるよ。

「声に出てるから反応してるんだ。声に出てないのに反応するなんて、校長みたいなことは出来ないよ」

「ま、それはそうだねえ、で、楊参謀、何か報告かい？」

「参謀じゃなくて副長だよ。ワイアット提督？」

「誰が提督だよ。ちえっ、わかったよ、副長。で、報告なのか？」

「ああ、第1艦隊より分艦隊司令に連絡があった。サイド3より1隻の船：シャトルと思われる、が移動中、本分遣隊付近を通過予定、とのことだね」

「何だ、別段おかしいことじゃないじゃないか。」

「最後まで聞きなさい。で、そのシャトルを追って3隻の艦艇がサイド3から出航してるってさ。で、シャトルを保護しろとお達しだ。」

「ふうむ、何か嫌な予感がするね。楊くん、君はどう思う？」

「…十中八九、亡命者だろうね。3隻の艦艇で追いかけるんだから、よほどのVIPかな？」

「だよー…。しょうがない、艦橋にいきますか」

「うん、そうしたほうがいいね。というか、それで呼びにきたんだから」

はたして、艦橋に入ってみると。

「艦長、分遣隊司令より通信です」

「うん、こっちにまわす」

『ワイアット艦長、なかなかゆつくりしたご登場だな』

ヤベ、もう繋がってら。にしても、このモブ士官、やけに俺のこ
と嫌ってるんだよねあ。

「ハッ、遅くなりまして申し訳ありません、司令！」

『ふん、まあいい。情報は聞いてるな？』

「ハイ、了解しております」

あ、モブ士官の顔が歪んで笑ってる。ものすごくヤナ予感。

『では、君に命令を与える。我が分遣隊はシャトルを保護、次第す
ぐに本隊に向け、出発する。しかし、敵艦3隻は優速と思われるの
で貴艦オウカ単艦をもって敵艦を足止めせよ』

「は、しかし、敵艦は3隻。我ら分遣隊は5隻、普通に接触しても
向こうは手出しをしないでしょう。足止めも必要ないのでは？」

『万が一にも、やつらに渡すわけにはいかぬのだ。これは命令だ。』

いいね!!』

…あーあ、回線切りやがった。困ったなあ。

「なあ、楊副長、どうしたらいいとおもう？」

「さあね。まあ、戦争してるわけじゃないし、君が頑張ればいいんじゃないかな？ 艦長殿」

さてはて、相手の出方次第ですかね。どうしたものか…。

・・・彼は、生き延びることが出来るか？

第15話 警備中？いえ、警邏です。（後書き）

皆様、お久しぶりです。

ここ最近、色々遂行して考えがまとまらなかったり。おかげで筆が進みません。

なぜか読者の皆さんが増えてる理由がわからず、プレッシャーががが。

で、皆さんに質問です。

ワイアット君を若かりしころの本編登場キャラクターに絡めますか（一年戦争開始が遅くなります。どのくらいか不明）、それともちやっちゃんと一年戦争まで行くか。（最速2〜3話で一年戦争まで行きます）どっちがいいですかねー？

感想なりメッセージなりで意見お聞かせくださると幸いです。

下手に本編キャラ出すと、イメージぶっ壊しそうなのがどきどきしてる作者でした。

では、最後に、読了感謝です。

第16話 「まだ」緑なす黒髪

こんにちわ、ワイアットです。

ただいま分遣隊本隊から約30分ほど先行してシャトルに向かって航行中です。

「艦長、シャトルとの接触まで後5分ほどだよ」

楊副長の報告。さあて、どうしたものかねえ？

「副長、ジオンの艦隊まではどのくらい？」

「んー、8分ってトコかな。艦長、どうする？」

「通常の通信はジオンに傍受されるかー…：発光信号はジオンには届かないよね？」

「うん、指向性あげてやれば大丈夫だね。何か手を考えたのかい？」

楊君め、ニヤニヤとこっちの苦境楽しんでるな？ チクシヨウめ。

「何も考えてないさ。ひと芝居うって、ジオンとは交渉するだけだよ。シャトルに発光信号おくれ。『後方ニテ保護ス。全速ニテ脱出セヨ。平文ハ無視セヨ。』以上…これでどうかな？」

「シャトルより発光信号確認、『了解』」

「よし、ジオンにも聞かせるぞ。オープンチャンネルにて打電。繰

り返せ。『臨検ス。停船セヨ。』だ」

「シャトルまであと1分。減速の様子なし」

「よし、続けてオープンチャンネルで打電。『停船セヨ。シタガワザレバ撃沈ス』以上。砲術長。シャトル通過後にレーザー衛星展開。間に合わなくていいから、ゆっくりやって」

「シャトル、通過していきます」

よっし、これでシャトルは後方に任してーっと。

「レーザー衛星展開。総員第1種戦闘態勢に移れ。ジオンのお客さんをお迎えするぞ。ジオン艦隊に入電。回線を開くように申し入れる」

あとは私の芝居にかかっているってかな。

「回線繋がります。艦長、おくりました」

さてはて、誰が出てくるか。などとドキドキしながら、通話ボタンをポチっとな。

で、画面に出てきたのは：誰だこれ？見たことある面だなあ。でも、ジオンで、髪の毛オールバックになでつけてる士官ってギレンしか知らないんだけどな・・・誰だこれ？

「こちら、ジオン公国防軍特務艦隊司令、エギーユ・デラーズ少佐です」

「ぶはっ！！」

「どうなされました？」

やべえ！！ 画面の向こうにいたのは、デラーズ閣下でしたー…
まだまだ若いのに立派なおヒゲ…そして、豊かなその御髪。後ろに
ペットリなでつけてるよう！！ あんなにペットリなでつけてるか
ら、後で髪の毛が…。

まったく、俺の腹筋破壊する気か！！ …って、ヤバイ、みんな
訝しんでる。ここは気を取り直して。

「失礼。こちら、連邦宇宙軍第一艦隊所属 巡洋艦『オウカ』艦長、
グリーン・ワイアット大尉です。さっそくですがデラーズ提督。こ
こは連邦宇宙軍の警戒宙域であり、ジオン管制の警戒宙域を大きく
外れています。直ちに変針、帰還なさっていただきたい」

「現在、我が艦隊は重大な犯罪者を追跡している。シャトルの追尾、
捕獲を容認されたし」

まずは軽いジャブの応酬。

「それについては、本官ではご返答できません。また、任務上、こ
れより先に航路を取られることは認められません。後方にてこちら
の艦隊が展開しております。不審船を捕縛予定につき、正式に外交
ルートでの犯罪者引渡しを打診してください。繰り返します。直ち
に減速・変針を。」

「当方、シャトルの捕縛は正式な任務である。このまま増速すれば、
そちらの艦隊より先に捕縛できる。そちらに手間をかけることもな
い。このままの追跡を許可されたし」

むう、あくまでも追跡を主張しますか。でも、そういうわけには
いかないんですよ。

「提督、申し訳ないですが先程も不審船にそのまま逃げられてるの
で、これ以上失態を重ねるわけにはいかないのです。これ以上の増
速、航行は敵対行為とみなします。：総員一種戦闘配備」

さて、これでこちらは後に引けないぞーってね。デラーズ提督は
どう出るかな？

「ふむ：こちらは3隻、貴艦は1隻。それでも、やると？」

脅してきましたか、でもねー。

「体当たりをしてでも止めさせていただきますよ？ 今、ジオンと
連邦との間は微妙だから、問題が起ると、後はどうなるか知りま
せんが。」

言外に、今、ジオンと連邦とで戦争みたいなことになる、困る
んはそっちだろー！！と匂わして。

「：ふむ：了解した。これより当艦隊は変針、サイド3へと帰還す
る。これでよろしいか？」

「デラーズ提督の英断に感謝します」

ほっ、なんとかなったみたいだなあ。

「貴官は、グリーン・ワイアットといったな？ ；ふむ、そうか。
『あの』ワイアットか。よく覚えておく。それでは失礼する」

：『あの』ワイアットってナンデスカ？ まさか、ジオンの諜報部にまで俺の情報流れてる？！ こええ！！

などと思つてると、オペ子ちゃんが報告くれて。

「ジオン艦隊、変針していきます…あれは？ …艦長、新型艦です！」

え、新型艦？ と思つてみると。オリブドラブの色をした特徴的な艦が眼前を回頭していきまして。うっわ、ムサイだ、マジもんだよ！ ガンオタにとっては最高の一瞬だよ！！

「ジオン艦より、発光信号。『貴艦ノ航海ノ無事ヲ祈ル』…艦長、返信はどうします？」

うわー、マジのムサイだ、感動する！ マジで痺れる憧れるう！！

「オペ子君、艦長は遠い世界に行つてるようだ。ま、返信はいいんじゃないかな？ 向こうはそんなの期待してないと思うよ」

生ムサイ生むさい！！

…私が一人でムサイ祭りやってるうちに、楊君とオペ子君がちゃんとやってくれたのでした。まる。

∴彼は、生き延びることができるか？

第16話 「まだ」緑なす黒髪（後書き）

で、遅くなりました。

実は、この話だけ4回くらい書き直してるんですよ。

書き直すことに出てくる人物やら情景が変わったり。

暑さで勢いがなくなったり、面白くするためにはどうしたらいいんだろ・・・？

原作キャラとかの口調は思い出して書いてるつもりですが、おかしな点があればどんどん指摘ください。

それでは、また次回にお会いしましょう。

第17話 金髪兄妹とご老体

こんにちわ、グリーンです。今日は久々の地上からお送りいたします。

前回の警備行動からひと月ちょっと。長期の休暇が、私の所属してる分艦隊に回ってきたんですよー。まあ、ガタがきはじめてる船のドック入りの意味もあるんですが。

旧式の船で装甲板も旧式だから、普通に航行してても微小デブリとかでやっぱり傷がつくんですよ。

で、長めの休暇（丸まるひと月、でも2年の1回。この休暇の時しか地上に帰れない！！）をもらったので、両親に顔を出すと、事のほか喜んでくれて。父も急遽（無理やり）休暇を取ってきたらしくて、南欧に旅行に来ております。いやー、やっぱ地上はいいもんですねー。

そして、今は母の知り合いの家にお世話になってます。母方の友人らしいんですけども、南欧ではそれなりの名家だとか。

ヨーロッパの名家（貴族）は先祖たどればほとんどが親戚ですし、その関係なんですかね？

で、ここからが重要なんですよ。このお世話になってる家、ほんのひと月程前に二人の養子を迎えなさったらしくて。あと、この二人の保護者だったご老人も逗留なされてたんですが。

この、ご老人の名前が『ジンバ・ラル』って言うんですよー（

トオイメ

二人の養子の名前が兄が『エドワウ』妹が『セイラ』って言うんですよねー（遙かトオイメ）

お世話になってる南欧の名家は『マス家』なんですよー（吐血）

やっべー、どうする、どうするよ俺！！　これ、シャアだよ。もしかすると、のちの死亡フラグの一人だよ。今のうちにやっちゃうか？　誰か、俺にライフカードを見せてくれ！！

などと、頭ぐるぐるしてると、気が付けば。円卓の座席に着席中。正面にジンバさん。その左右に金髪兄妹。

…え、なにこの状況？　両親は？　マス家の面々の方たちは？

「皆さんには席を外していただきました」

私の考えを読んだようにご老体が口を開いて

「改めまして、ジンバ・ラルと申します」

「エドワウ・マスです」

「あるも…セイラ・マスです」

3人が次々に挨拶をした。

「これはご丁寧に。自分は地球連邦軍大尉、グリーン・ワイアットであります」

あ、ご老体の眼光に押されてガチガチの挨拶しちゃったよ。

「はい…存じております。グリーンさん、どうも…どうもありがとうございました」

びびつてると、いきなりご老体が私に向かって頭を深々と下げてきた。あるえー？ 何か頭下げられるようなことしたっけ？

「ジンバさん、私は何も、頭を下げられるようなことは…」

「ひと月前のシャトルの件、と言えばお分かりかな？ あの時、貴方のおかげで私と、この子達は助けられた…ゴホッゴホッ」

この一言にピンとひらめく。シャトルに乗ってたのあなたたちかい。そりゃ新型艦に特務艦隊組んでまで追いかけるわ。

「あれも、私の仕事のうちです。お礼を言われるにはあたりません。それより、体調が悪い様子。お休みになられては？」

ここでの話はチャツチャと打ち切って、なんとか対策考えないと。

「はい…申し訳ありません…ゴホッ…地上の空気に今少し慣れておらぬようで。少し休ませていただきます。さあ、エドワウ様、セイラお嬢様、行きましょう」

よし、これで考える時間ができr

「ちょっと待って、ジンバ爺は一人で先に戻ってて。僕はグリーンさんと少しお話したい」

「…にーさまがそう言うなら、あたしもしたい、です」

ちよ、おま、金髪兄、なんてこと言うんだ。ジンバさん連れてつて、と、ジンバさんを見ると。

「ゴホッ、そうですね。あまりご迷惑をおかけしてはいけませぬぞ。それでは先に戻っておりますな」

ちよ、ジジイ！！

あれよあれよというまに、部屋には3人だけになって。

「グリーンおじさん！！ シャトルの時はありがとう。あの時、グリーンさんとジオンの艦長のやりとりも聞いてた。とってもよかったよ」

「おじさん…かつこよかった…。」

グリーンは精神に1000のダメージを受けた。

「ハハハ、アリガトウ。デモ、『お兄さん』ツテ、ヨンデクレルトウレシイナ。」

「うん分かったよ、グリーンお兄さん。 僕ね、将来はお兄さんみたいなカッコイイ軍人になる。お兄さんみたいに敵が3倍でも負けないような、強い軍人に！！」

「…私もあるー」

ちよ、それやばい。彗星が出来上がっちゃう！！

「エドワウ君、軍人は危険な仕事だ。大きな怪我するかもしれないし、死んじゃうかもしれない。おすめは出来ないな。それにセイラお嬢ちゃんとも一緒にいられるかわからない。もっと、君の才能

生かした将来を考えてもいいと思うよ」

これどうだっ!!

「アルティ：セイラが軍人になって危ない目に合うのは嫌だけでも、僕は軍人になりたいんだ!!」
それで、悪い奴らをやつつけるんだ!!」

「やー、私にもーさまといっしょがいいー」

「じゃ、セイラは医者になって、僕が怪我したときに助けておくれ?」

「にーさま、私がお医者さんになってにーさま助ける? わかった、あたしお医者さんになる」

：あつれー、話が変な方向に流れてきてるぞー?

「じゃ、あまり遅くなると爺が心配するから行くね。グリーンお兄さん、ありがとう」

「ありがとうー」

風のように金髪兄妹が去っていった。一人呆然と佇む、私グリーン。

：これが歴史の修正力ってやつなのか?　なんでだ?　なんでだ
! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! ! (血涙)

・
・
・
彼は、生き延びることができるか？

第17話 金髪兄妹とご老体（後書き）

ああ、怒らないでください。モノ投げないでください。

ちょっと、魔が差したただけなんです＞＜

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7060t/>

緑の人の憂鬱

2011年9月16日17時37分発行